

～姫路で発見された新品種のサクラ～

手柄ザクラ



1. 手柄山で新品種の桜を発見!

平成8年(1996年)3月、故・室井 綽氏が手柄山中央公園内の手柄山温室植物園登り口斜面に1本だけ発見した桜です。室井氏の著書「姫路の生物・正統」には、『フタエカスミザクラ 世界一の珍品』として紹介され、「この木は世界中でも唯一本の珍木であろう。市民の協力を得て永久に保存したい。」と記されています。

その後、手柄山中央公園の整備で無くなってしまったと記録されていましたが、2015年4月頃に、手柄山温室植物園職員が公園内を探索し、改めて原木を発見しました。

故・室井 綽(むろい ひろし)氏

1919-2012

兵庫県赤穂市出身の植物学者
『竹博士』として知られ、富士竹
植物園長や兵庫県生物学会会長
などを歴任。

1964年兵庫県文化賞受賞

1976年神戸市文化賞受賞

1992年勲五等双光旭日章受賞

2. 新しい園芸品種として認定!

手柄ザクラ原木の自生位置図 (●)

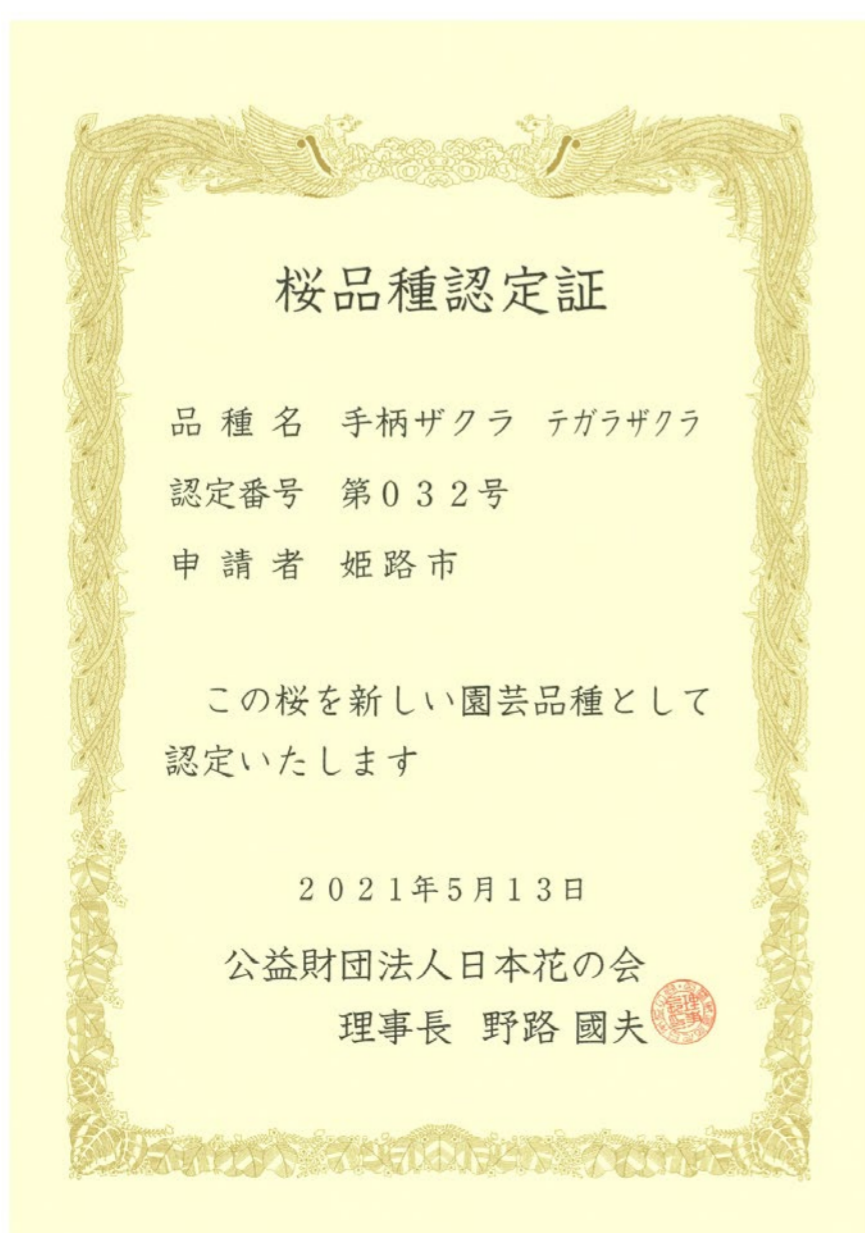


手柄山温室植物園職員は、室井氏の著作の記述から、植物園に上がる道沿いにある桜がフタエカスミザクラではないかと推察し、開花が4月下旬頃と非常に遅いため他の桜と大きく違っていたこと、また花を見ると二重の花びらを持っていたことから再発見の確証を得ました。



手柄ザクラの苗木

また原木1本のみであることから、苗木を確保するために、2015年(平成27年)9月に公益財団法人日本花の会に継ぎ木を依頼、数本の苗木として納入されました。現在は、姫路城西御屋敷跡庭園 好古園や姫路市農業振興センターで育成されています。



2019年(平成31年)1月には姫路市の保存樹に指定されました。

そして2021年(令和3年)5月13日付で、公益財団法人日本花の会により、新しい園芸品種として認定されました。

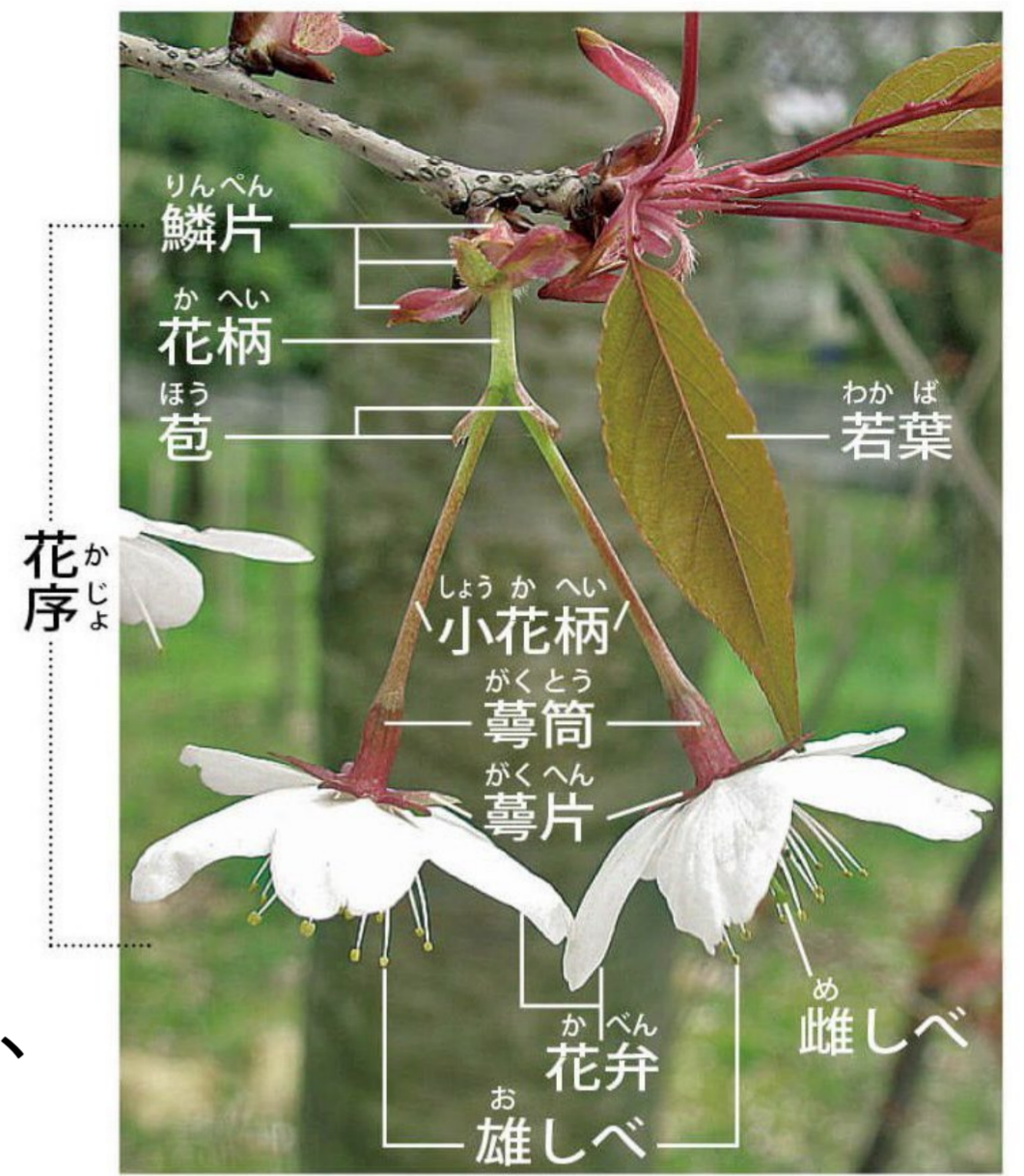
発見の由来など、地域の自然環境や歴史を物語る手柄地区のシンボルとして、「手柄ザクラ」と命名されました。

3. 手柄ザクラの特徴

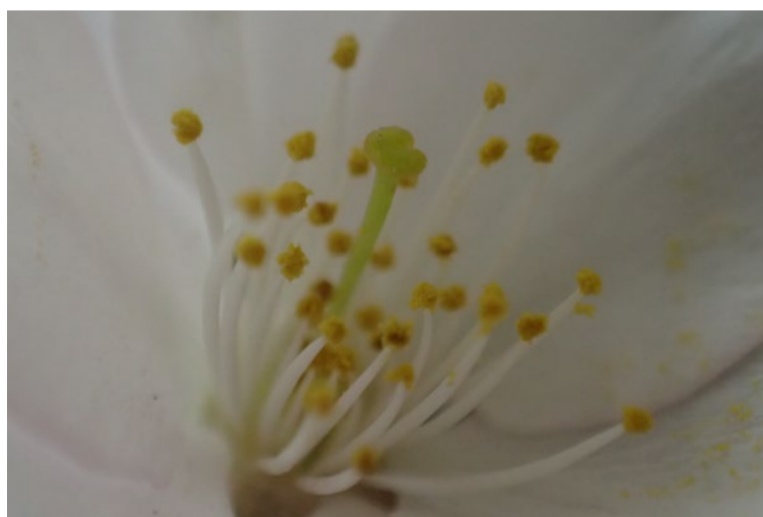
Cerasus leveilleana 'Tegara-zakura' バラ科

「手柄ザクラ」は、葉および葉柄、小花柄に毛があることや成葉裏面が緑色であることなどからカスミザクラの一種であると考えられます。

原木は植樹した個体であるとは考えられないこと、地区周辺を開発する前は手柄地区はカスミザクラが自生する雑木林であったことなどから、自然状態で突然変異により生じた、遺伝的に独立した新しい品種といえます。



一般的なサクラの花名称



雌ずいと雄ずい
(雌ずいの方が長い)

なお、カスミザクラが半八重咲きとなった既存品種としては、ハンヤエカスミザクラが報告されていますが、「手柄ザクラ」は、旗弁（きべん：雄しべが変化し花弁化したもので、完全に花弁になっていないもの）ではなく、花弁数が7枚から14枚と多いこと、花弁先端の切れ込みが少ないこと、雌ずい

が雄ずいより長いことなどの点で区別できることから、完全な新種であるといえます。

この桜は、花は中輪咲で花つきがよいことや、花弁の重なりが厚く花のボリューム感があること、蕾の淡紅色と白い花色の組み合わせが美しいことなどの特徴もあり、ソメイヨシノの開花が終わった後の新緑の中で花を咲かせる遅咲きの桜として楽しむことができます。



手柄サクラ

4. 保全・増殖活動と普及啓発

「手柄ザクラ」は現地に原木が1本しかない貴重なものです。手柄山温室植物園登り口の傾斜地で石垣のそばに生育しており、いつまで生育できるかわからないぜい弱な状況であります。また、周囲の木々の影響による日照不足もあり、年々弱ってしまっていることも現状であります。



平成 18 年 (2006 年)



平成 31 年 (2019 年)

絶滅の恐れ（樹勢が衰退傾向）のある種については、その自生環境での維持・回復が保全方策の基本です。

原木の樹勢を維持・回復する策を講じるとともに、保全していくために、原木以外の増殖株を植樹していく必要があります。

また、地元自治会が行っているPR活動をはじめ、「手柄ザクラ」を地域の、ひいては姫路のシンボルとして、より多くの方々に知ってもらい、次世代へ引き継いでいく必要もあります。



手柄山中央公園内サクラの保全活動



手柄サクラのPRのぼり

姫路市および（一財）姫路市まちづくり振興機構は、地域団体と協力し、「手柄ザクラ」の保全および増殖活動と普及啓発に尽力してまいります。